

「たしざん」評価規準表

＜本単元のねらい＞ 加法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

単 元 の 評 価 規 準	時	評価場面（方法）	主 な 評 価 の 観 点	努力を要する状況の児童への指導の手立て
[算数への関心・意欲・態度] ○（１位数）＋（１位数）の繰り上がりのある計算に興味をもち、その計算の方法を自ら工夫し、考えようとする。 ○加法を用いて身の回りの問題を解決するなど、加法を進んで用いようとする。 [数学的な考え方] ○計算にかかわる作業的・体験的な活動を通して、計算のしかたについて考えることができる。 ○「１０の補数」という考えのよさに気づき、効率的な計算の方法について考えることができる。 [数量や図形についての表現・処理] ○加法の場面を式で表したり、式をよんだりすることができる。 ○（１位数）＋（１位数）の繰り上がりのある計算を確実にすることができる。 [数量や図形についての知識・理解] ○加法が用いられる場合を理解している。 ○（１位数）＋（１位数）の繰り上がりのある計算の方法について理解している。	１・２	・手紙を読み、学習課題をとらえ、$9 + \square$、$8 + \square$の計算の仕方を考える場面（操作活動・発言・手紙）	関 既習の学習や算数的活動を通して、繰り上がりのあるたしざんの計算方法を考えて説明したり、他の児童の考えに興味をもったりする。 考 「１０の補数」という考えのよさに気づき、計算の仕方を考えることができる。	・具体物の選択や操作の仕方に迷っている児童には、ブロックを使った既習の学習を思い起こさせ、児童の考えを引き出しながら、ともに操作する。 ・数えたす方法で答えを求めている児童には、１から数えなくても簡単に正しく数を把握できる方法のよさを具体物の操作によって感得させる。
	３・４	・$7 + \square$、$6 + \square$の計算の仕方を考え、説明する場面（操作活動・発言・手紙）	考 繰り上がりのあるたしざんについて、１０のまとまりをつくって計算の仕方を考え、自分の計算の仕方を説明することができる。	・数えたす方法で答えを求めている児童には、被加数の１０の補数を確認し、加数を補数といくつに分けることを練習させる。
	６	・$5 + \square$、$4 + \square$、$3 + \square$、$2 + \square$の計算の仕方を考える場面（操作活動・発言・手紙）	考 被加数と加数の大きさを比較して、より効率よく１０のまとまりをつくって、計算の仕方を考えることができる。	・被加数と加数の大きさに着目できるように、具体物を使って計算の仕方を考えさせ、大きい数にたす計算の仕方が効率的であることを理解させる。
	５・７	・カードを使って、計算練習をしたり、ゲームをしたりする場面（操作活動・発言）	表 繰り上がりのあるたしざんの計算を早く正確にすることができる。	・１０のまとまりを作ることはできるが、答えがすぐに出ない児童には、どの計算が苦手なのか、たしざんカードを分類し、練習させる。
	８・９・１０	・加法の場面を式にしたり、加法の問題（お話）を作ったりする場面（ノート、プリント）	知 たしざんが用いられる場面と計算の仕方がわかっている。 表 たしざんが用いられる場面で、加法の式に表したり、式から問題をつくることことができる。	・たしざんが用いられる場面がよく理解できていない児童には、たしざんのキーワードを思い起こさせ式化させる。 ・身の回りから問題を見つけることが難しい児童には、教科書などにある問題を参考にして、問題づくりをさせる。